

# 新美南吉『手ぶくろを買いに』

## 読書感想文の例1

© 作文技術指導研究会  
無断での複製や二次使用を禁じます

### はじめ

「母さんぎつねは、心配しながら、ぼうやのきつねの帰ってくるのを、今か今かと、ふるえながら待っていたので、ぼうやが来ると、あたたかいむねにだきしめて泣きたいほど喜びました。」というところを読んで、わたしはジーンとしました。わたしはじめてひとりでおつかいにいった時のことを思い出したからです。

### なか

わたしがまだ、ようちえんのころでした。お母さんにたのまれて、はじめて、ひとりでおつかいに行くことになりました。さいふにお金を入れてもらって、お店に出かけました。買ってくるものをわすれないように、なんとも言いながら、歩いていきました。お店は、いつもお母さんといっしょに行くので、お店の人もよく知っています。だから、出かける時は平気だったのに、家が少しづつ遠くなっていくうちに、だんだん心ぼそくなってきて、すぐに家に帰りたくなりました。でも、ちゃんとおつかいをしなきゃと思い、泣きたいのをがまんしてかけあしでお店に行きました。なんとか、お店にたどりついて、お母さんにたのまれたものを買おうとしたら、あんまりいいいだので、何を言うのかをすっかりわすれていました。わたしは、レジのところに行って、おばさんにそのことを言いました。すると、おばさんがお母さんにでんわをかけて、きいてくれました。それから、しなものをもらって、お金をはらうと、おばさんが「えらかったね。気をつけておかえり」と言ってくれました。わたしは、おばさんのやさしさに少しだけ元気が出て、まっしぐらに家に向かって歩きました。家の近くまで来ると、お母さんが家の外で待っていてくれました。わたしは、お母さんの顔を見たときに、わあわあ大声で泣いてしまいました。お母さんはわたしにかけよると、「おかえり。おつかいありがとう」と言って、わたしをぎゅっとだきしめてくれました。

### おわり

このお話を読んで、あの時、お母さんもすごく心配してくれていたんだらうなと思いました。そして、お母さんの顔を見た時のうれしさを思い出しました。お母さんが子どものことを心配し、子どもはお母さんのそばが一番安心するのは、きつねも人間も、同じなんだなと思いました。なんだか、心がほわんとあたたかくなりました。